こちら

ナが収束しても、多くの病院で長期的に外来患者数が戻らない可能性もある。国

「医

医療政策を巡っては一九八〇年代前半、中曽根康弘政権の下で厚生省を中心

本音のコラム

小池都知事とコロナ

前川喜平(まえかわきへい)

小池百合子東京都知事の新型コロナウイルス対策には、首をかしげることが多い。東京オリンピック・パラリンピックの延期が決まるや、翌三月二十五日の記者会見でいきなり「感染爆発の重大局面」と言い出した。オリ・パラの開催まで感染拡大を隠そうとしていたのではないか。

都立学校の休校は三カ月に及ぶ。一時九月入学論を唱えたが今は黙っている。段階的に分散登校を行う方針だが、六月十五日からやっと週三~四日の登校だ。学習塾への休業要請は六月一日に解除した。学校の再開の方が先ではないのか。

「夜の街」を問題視してきた小池氏は、六月七日の西村康稔担当相との会談で、ホストクラブのホストが定期的にPCR検査を受けられる態勢作りを確認したという。それなら介護士、保育士、教師などにも同様の措置をとるべきだろう。

六月二日にレインボーブリッジを赤く照らした「東京アラート」は、十一日深夜に解除したが、十二日零時にカラオケやパチンコ店への休業要請も解除した。十九日には接待を伴う飲食店も緩和するという。これも解せない。何のための「アラート」だったのか。同じ十二日、小池氏は都知事選への出馬を表明した。休業要請解除は出馬表明の「お土産」なのではないか。小池氏はコロナ禍を自分の選挙に利用しているのではないか。(現代教育行政研究会代表)

2020.6.14

木曜発売の春』のスクープ夕方の文春オ速報され、騒動日火曜から騒動り、水曜朝には紙やワイドシに報じることお笑いコンヤッシュ」の倫騒動だ。九が事実を認め自粛をテレビれたからだ。番組を何本もタレントだけ局は大騒動にいない。

十三日土曜系「王様のブは、渡部不在で説明がなさ司会を務めて里が涙ぐんだっ張っていた不在となってれたのだろう